

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人わくわく
代表者・役職名 氏名 理事長 渡辺啓二

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

みんな集まれ！思いっきりわくわくお楽しみ会

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

コロナ禍や家庭の事情など、様々な要因で体験機会を失ってしまう子ども達が居ます。そんな子ども達を一人でも減らし、思いっきり楽しい体験をしてほしいと思いイベント型の子ども食堂を企画しました。夏はプール、秋は屋外でハロウィン、冬はクリスマス。最高の体験と思い出を受け取ってもらえればと思います。

様々な事情によりクリスマスにプレゼントがもらえない子どもも居ると聞きます。最たる原因は貧困であると考えます。「うちは貧乏だから」と劣等感を味わってほしくありません。わくわく子ども食堂に来れば、みんな一緒です。親も子も一緒に食べて笑って素敵な時間を過ごしたい。そんな想いです。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

夕涼み会・ハロウィン・クリスマスビンゴ大会を実施しました。参加者のべ82名(子ども51名、大人31名)ボランティア8名。コロナ禍、貧困、家庭的事情等によって機会を失っていた子ども達に笑顔いっぱいの機会を創出できました。アンケートで全ての世帯から今後も参加したいという意見を頂くことが出来ました。また、今回の活動を通し、12世帯と新しく関係を持つ事が出来ました。

SNS投稿を見た他の子ども食堂から、コロナ禍での開催の参考にさせてください。といった問い合わせがありました。ネガティブな意見ではなく、ポジティブな方向で活動をためらっていた他の子ども食堂にも勇気を与えられたと自負しております。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

イベント型での開催方法に、わずかですが批判はありました。今後の活動においては、誰が見ても納得する感染症対策の必要性が出てくると考えます。

学校との認識の違いも顕著に現れました。開催を告知しに行きましたが、受け入れていただけませんでした。子ども達に「多数数でのイベント、行事は控えるように」という通達があり、参加しないという選択を取った家庭がありました。

子供食堂というコミュニティにおける、体験・承認機会の創出と感染症のリスクについて再考する機会となりました。スタッフ間で子ども食堂の果たすべき役割について議論しながら、より良い活動になるよう使命感を持って今後も続けていきたいと思っております。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

